



第6話 足たけ山

八面山のしょうけのはなの南側に、足嶽(あしたけ)という山がある。地元では「足たけ山」と呼んでいる。この山は大昔京都にあって、その秀麗さと高さを誇り、ひとり悦に入って傲慢な態度であった。

何年か経ったある日、「西の方遙か筑紫の国に、八面山という山があって、高く雄大な姿は皆から崇められている」という噂が伝わって来た。「そんなことはない。わしより高い山はないはずだ」とその傲慢さを顧みようとしなかった。しかし、噂は広がる一方である。内心おもしろくないこの山は、「それでは行って確かめよう」と家来を一人連れて天空高く飛び上がり、一晩のうちに飛来して、八面山の南側に降り立った。そして八面山のしょうけはなを見ると、自分より遥かに高く、いくら背伸びしても追いつかない。

今までの傲慢さは空高く消え去り、嘆息の日が続き、京都に帰る元気もなくなった。そこで八面山と仲よくすることを誓い、家来と共にそのまま居据わった。その高さが、八面山の足の丈しかなかったことから、「足たけ山」というようになった、という。今も主従が八面山に向って並んでいる。